

そよかぜ 5月園便り

令和2年5月18日
西東京市立そよかぜ保育園

新緑が美しく、日差しがキラキラとまぶしい季節になりました。

例年ですと、「さあ、お散歩に行つてたくさん体を動かして遊ぼう！」と初夏の気持ちいい風を受けながら駆け回っているところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保育園は長い臨時休園状態。お仕事をお休みできないご家庭のお子さんのみ特別保育ということで、毎日10名前後の子どもたちと遊ぶ毎日です。

この間在宅でお仕事をされているご家庭も多く、お子さんがいることで十分なお仕事ができない状況も多々あるかと思います。そのような状況においても保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで職員も最小人数での出勤をさせていただくなど、対応をとることができています。ありがとうございます。

こんなに長い時間お子さんと過ごすのは初めて…という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。一刻も早く普段の生活に戻ることを祈りつつ、お子さんとの時間も楽しいものになるように願っています。

もし、今までと違う環境の中で気持ちに余裕がなくなったり困ったことがあったら、いつでも保育園に連絡してください。**元気になる方法を一緒に考えましょう。**

全てが初めてのことで、私たち職員も試行錯誤しながら日々の保育園運営を続けています。今が踏ん張りどころ。ご家庭と保育園が一丸となって、この状況を乗り越えていきましょう！
元気な子どもたちに会える日を心待ちにしています！

休園期間中に配布できなかったお便り等、今回ご家庭へ郵送させていただきました。各クラス別に『製作キット』も同封しております。お子さんと一緒に遊ぶあそびの一つとしての材料になると嬉しいです。

ホームページでも“お知らせ”以外にも配信していきますので、時々チェックしてくださいね。

去年の年長さんが作った

“こいのぼり”です

毎日園庭でこいのぼりも泳いでいます！



新型コロナウイルスの影響で、自宅で過ごす日々、なおざりになっている庭の草取りをしていると、スズランが白いつぼみをつけ、蔭が柔らかい葉を広げています。山ではカタクリの花が咲き始める頃、草木の芽吹きの際に「命」のたくましさを思いました。

予期せずして 突如入ってしまったこのトンネル。出口を見失ったように見えますが、この先に朝は有り、陽は登る。慌てずじっとその時を待ちましょう。

体罰等によらない子育てを

2020年4月 児童福祉法の一部が改正され、子どもへの体罰は禁止されました。

叩く、蹴るなどは勿論ですが、言葉による暴力も体罰と同じです。暴言や拒絶的な態度などの心理的虐待や「生まれてこなければよかった」などの発言や笑いものにするなどの侮辱的な行為は、子どもの心を傷付け、決して許されるものではありません。

1 身体に苦痛、不快感を与える行為は体罰です

- ・注意しても聞かないので 頬を叩く
- ・いたずらをしたので 長時間正座させる
- ・友達を殴ったので、同じように殴る
- ・他人の物を盗んだので、罰で尻を叩く
- ・宿題をしないので、夕ご飯を与えない 等

2 暴言などは虐待や人権侵害です。

- ・冗談でも「生まれてこなければよかった」等、子どもの存在を否定する言葉
- ・兄弟と比較し、ダメ出しをする
- ・無視をする。

等 があります。体罰などが繰り返されると、子どもの心身の成長・発達に悪影響があることは言うまでもありません。

虐待をした方から「しつけ」のつもりで・・・と聞くことがありますが、その瞬間冷静さを欠いた否定的な感情が、その行為を取らせているのかもしれない。

深呼吸して気持ちを落ち着けたり、5秒数える、窓を開け風にあたって気分を落ち着けるなど、ストレスを和らげる自分なりの工夫を見つけることが大事です。

父母や、祖父母に優しくされ、嬉しく勇気づけられて今日があります。親となった今 子どもの頃 よく言われた事や体験がよみがえり、何気ない行為の中で再現されていることに気づかされませんか。

追体験は形を変え、再現されていきます。幼い頃 どのような育ち（体験）をしたかが懐かしく思い起こされ、その瞬間に「あ！」と反省することもありますね。負の連鎖とならないようにしたいです。

自粛生活を余儀なくされ、子どもと一緒にいる時間が増えました。新たな発見＝喜び＝も増えましたが、同時に、ストレスも倍増していることと思います。ちょっと立ち止まり、この時間を有意義に使ってみませんか。

職員のつぶやき

四月から夢だった保育士になることができました。わくわくした気持ちと少しの不安を感じながら頑張ろう！と意気込んだ矢先にコロナで自粛期間が始まり、いろいろなことに気を配る生活に変わりました。こんな時期だからこそ人の優しさにたくさん触れることが多くなったと感じます。保育園では、保護者や職員の方から手作りマスクをいただいたり、お子さんがいる職員が負担にならないようにほかの職員で助け合ったり、小さい優しさが積み重なってとても幸せな気持ちになります。保育園では子どもと一緒に楽しむことを忘れず、子どもが少ないからこそ、先生方の関わり方からたくさん学び知識をつけて歌を覚えるなど自分が出来ることをしていきたいです。いただいた優しさを大切に周りの環境に感謝しながら乗り越えていきたいなと思います。

羽村しらうめ保育園 塚田ひより